

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 学校教育学部	3
2. 学校教育研究科	5
3. 高度学校教育実践専攻	7

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
学校教育学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
学校教育研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
高度学校教育実践専攻	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある



## 1. 学校教育学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 4 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学びを深めるための課題解決型学習（アクティブ・ラーニング）を積極的に取り入れた授業の実施を促すため、平成 29 年度から全ての授業科目のシラバスに、授業実施の具体的な方法（ディスカッション、グループ・ワーク、フィールドワークなど）を明記している。これにより、平成 29 年度以降のアクティブ・ラーニングの実施率は、90%以上となっている。
- 学校現場の教育の情報化に対応した学習や模擬授業の実施ができるように、電子黒板、デジタル教科書、書画カメラなどをラーニング・コモンズ室や附属図書館内のセミナー室に設置している。平成 28 年度からの利用日数は開室日の 80%を超えている。
- 科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成を目的として、平成 29 年度より、徳島県全ての大学・高等専門学校および教育委員会と連携し、「ジュニアドクター発掘・養成講座」を開催している。平成 30 年度には受講生 7 名が、国際生物学オリンピック日本委員会主催の「日本生物学オリンピック 2018」予選に参加し、1 名が本選に進出して敢闘賞を受賞するとともに、徳島県科学技術大賞（こども科学者部門）を受賞した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 2. 学校教育研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 6 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 6 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 29 年度までに開設した教育プログラムを、より今日的課題の解決に求められる資質・能力を向上させることができる内容とするため、令和元年度から、地域の要望・意見等を取り入れた、7つの「学校教育研究科認定プログラム」を開設した。プログラムの修了に必要な所定の単位等を修得した者には、「認定証」を授与している。
- 修士課程においては、教員養成系大学の大学院における修士論文として、更なる質の向上を図るため、平成 28 年度に論文の内容に関するガイドラインを定めた。これにより、教育実践に直接寄与する内容の修士論文が第2期中期目標期間終了時点で 50%であったものが、平成 29 年度以降は 90%を超えている。  
(令和元年度大学院改組前の教育課程のみ)

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

### 3. 高度学校教育実践専攻

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 8 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 8 )

**分析項目Ⅰ 教育活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

**〔特色ある点〕**

- 修了時の大学院生へのアンケートでは、「教育内容の満足度」についての肯定的回答は、平成 28 年度の 92%から令和元年度の 100%に増加している。毎年度に全授業科目に対して授業評価を実施した取組や実習指導における T.T. (Team Teaching) 体制が高い満足度を維持できている要因と考える。